



2020年12月期 第1四半期 決算説明資料

2020年 5月 14日
富士ソフト 株式会社



目次

2020年12月期 第1四半期 決算

- P2. 連結業績ハイライト
- P4. 主なグループ会社売上高・営業利益
- P5. 連結セグメント別売上高・営業利益
- P6. 連結損益計算書
- P7. 連結貸借対照表
- P8. 連結キャッシュ・フロー計算書
- P9. 連結S I 事業の受注高・受注残高
- P10. 新型コロナウイルス感染症の影響について



1.連結業績ハイライト

売上高はプロダクト・サービスおよびシステム構築分野により増収

◇売上高は、ライセンス販売を中心にプロダクト・サービスが好調に推移し、組込/制御系では社会インフラ、自動車関連、業務系では流通・サービス業向け、製造業向け、インターネットサービスを中心にシステム構築事業が堅調に推移しました。

営業利益は増収により増益

◇営業利益は、増収により前同比113.1%の4,459百万円となりました。

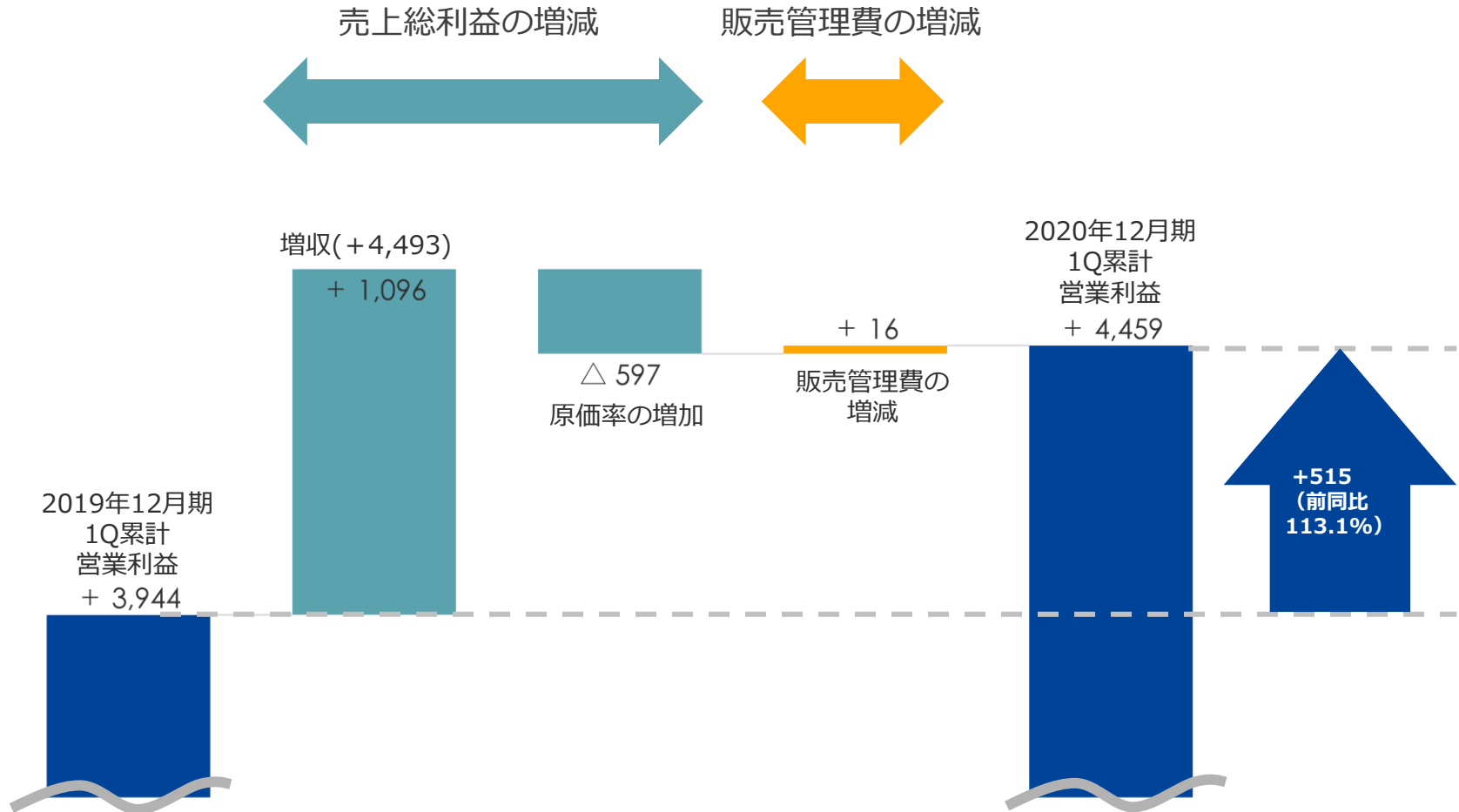
◇経常利益は、前同比114.0%の4,556百万円となりました。

◇親会社株主に帰属する四半期純利益は、前同比112.5%の2,539百万円となりました。

(単位：百万円)

	2019年12月期 1Q実績	2020年12月期 1Q実績	前同差	前同比	2020年12月期 1Q計画	計画比
売上高	55,213	59,707	+4,493	108.1%	56,600	105.5%
営業利益	3,944	4,459	+515	113.1%	3,550	125.6%
営業利益率	7.1%	7.5%			6.3%	
経常利益	3,995	4,556	+560	114.0%	3,600	126.6%
経常利益率	7.2%	7.6%			6.4%	
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,257	2,539	+281	112.5%	2,150	118.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益率	4.1%	4.3%			3.8%	

連結営業利益の状況 (1Q)





2.主なグループ会社売上高・営業利益

(単位:百万円)

	2020年 12月期	売上高	営業利益	
富士ソフト	1Q実績	40,128	2,640	売上高は、組込/制御系では社会インフラ、自動車関連、業務系では流通・サービス業向け、製造業向け、インターネットサービスを中心にシステム構築事業が好調に推移しました。また、プロダクト・サービスもライセンス販売が好調に推移し、増収となりました。営業利益は、増収により増益となりました。
	前同差	+4,486	+559	
	前同比	112.6%	126.9%	
サイバネットシステム	1Q実績	5,119	542	売上高は、国内ITソリューションサービス事業、台湾およびベルギーの海外子会社が増収となりましたが、国内CAEソリューションサービス事業や中国子会社の減速などにより、減収となりました。営業利益は、減収および製品構成比率の一時的な変動などにより、減益となりました。
	前同差	△ 20	△ 121	
	前同比	99.6%	81.7%	
ヴィンクス	1Q実績	7,502	755	売上高は、小売業におけるキャッシュレス化、マルチベンダー化(ハードウェアとソフトウェアの分離)のニーズの高まり、及び既存顧客への更なる深耕が奏功したことなどにより、増収になりました。営業利益は、増収及び原価率の改善により増益になりました。
	前同差	+724	+112	
	前同比	110.7%	117.5%	
サイバーコム	1Q実績	3,483	314	売上高は、サービス事業における構築系案件が好調に推移したことに加え、ソフトウェア開発事業が堅調に推移し増収となりました。営業利益は、増収および原価率の改善により増益となりました。
	前同差	+144	+48	
	前同比	104.3%	118.4%	
富士ソフト サービスビューロ	1Q実績	2,284	92	売上高は、地方自治体向けBPO業務や官公庁・民間向けコールセンター業務など堅調に推移しましたが、官公庁向け大型BPO業務の継続ができなかったことにより大幅な減収となりました。営業利益は、減収により減益となりました。
	前同差	△ 919	△ 42	
	前同比	71.3%	68.8%	

※「2020年12月期1Q実績」欄には、各社2020年1～3月の実績を記載しています。

3.連結セグメント別売上高・営業利益

(単位：百万円)

	2020年12月期売上高		前同差	前同比	2020年12月期営業利益		前同差	前同比
	1Q実績	構成比			1Q実績	営業利益率		
全社計	59,707	100.0%	+4,493	108.1%	4,459	7.5%	+515	113.1%
SI事業	56,344	94.4%	+5,390	110.6%	4,241	7.5%	+823	124.1%
システム構築	34,559	57.9%	+1,929	105.9%	2,957	8.6%	+835	139.4%
組込系／制御系ソフトウェア	17,145	28.7%	+1,287	108.1%	1,691	9.9%	+615	157.2%
業務系ソフトウェア	17,414	29.2%	+642	103.8%	1,265	7.3%	+220	121.0%
プロダクト・サービス	21,784	36.5%	+3,460	118.9%	1,283	5.9%	△ 12	99.1%
プロダクト・サービス	18,002	30.2%	+3,250	122.0%	986	5.5%	△ 4	99.5%
アウトソーシング	3,781	6.3%	+210	105.9%	297	7.9%	△ 7	97.6%
ファシリティ事業	689	1.2%	△ 50	93.2%	180	26.2%	△ 141	56.0%
その他事業	2,673	4.5%	△ 846	75.9%	37	1.4%	△ 166	18.3%

セグメント別売上高のポイント

●組込系／制御系ソフトウェア

売上高は、社会インフラ系、自動車関連が好調に推移したことにより、前同比108.1%と増収になりました。営業利益は、増収および自動車関連の原価率改善により前同比157.2%と増益になりました。

●業務系ソフトウェア

売上高は、流通・サービス向け、製造業向け、インターネットサービス分野およびシステムインフラ構築を中心に堅調に推移し、前同比103.8%と増収になりました。営業利益は、増収により前同比121.0%と増益になりました。

●プロダクト・サービス

売上高は、ライセンス販売が好調に推移し、前同比122.0%と増収になりました。営業利益は、利益率の高い製品販売が減少し、前同比99.5%と減益になりました。

●アウトソーシング

売上高は、官公庁向けが増加し前同比105.9%と増収となりました。営業利益は、流通・サービス向けで収益性が高い運用保守案件の割合が低下したことにより前同比97.6%と減益になりました。



4.連結損益計算書

(単位：百万円)

	2019年12月期	2020年12月期	前同差	前同比	2020年12月期	
	1Q実績	1Q実績			1Q計画	計画比
売上高	55,213	59,707	+4,493	108.1%	56,600	105.5%
売上原価	41,746	45,741	+3,995	109.6%	-	-
売上原価率	75.6%	76.6%	①			
売上総利益	13,467	13,965	+498	103.7%	-	-
売上総利益率	24.4%	23.4%				
販売費及び一般管理費	9,522	9,506	△ 16	99.8%	-	-
販管费率	17.2%	15.9%				
営業利益	3,944	4,459	+515	113.1%	3,550	125.6%
営業利益率	7.1%	7.5%			6.3%	
営業外収益	88	142	+53	161.0%	-	-
営業外費用	64	64	+0	99.2%	-	-
持分法による投資損益	27	18	△ 9	66.2%	-	-
経常利益	3,995	4,556	+560	114.0%	3,600	126.6%
経常利益率	7.2%	7.6%			6.4%	
特別利益	0	224	+224	-	-	-
特別損失	17	292	+274	1636.3%	-	-
税金等調整前四半期純利益	3,977	4,487	+510	112.8%	-	-
法人税等合計	1,185	1,388	+202	117.1%	-	-
四半期純利益	2,792	3,099	+307	111.0%	-	-
非支配株主に帰属する四半期純利益	534	560	+25	104.7%	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,257	2,539	+281	112.5%	2,150	118.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益率	4.1%	4.3%			3.8%	

損益計算書のポイント

① 売上原価率 (76.6%)

他社製品販売を中心としたプロダクト・サービスの増加により増加

② 販売費及び一般管理費 (-16百万円)

前期に生産性向上を目的としたタブレット端末取得による経費支出があったこと、今期の採用・育成経費が減少したことなどにより微減

5.連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2019年12月期	2020年12月期	前期末差
	期末	1Q期末	
流動資産	88,009	91,504	3,495 ①
現金及び預金	22,278	26,741	4,462
受取手形及び売掛金	49,570	51,086	1,516
有価証券	7,000	5,500	△ 1,500
たな卸資産	5,930	5,534	△ 395
その他	3,229	2,642	△ 587
固定資産	119,609	123,630	4,020 ②
有形固定資産	86,334	90,219	3,885
無形固定資産	4,043	4,047	4
投資その他の資産	29,231	29,363	131
資産合計	207,618	215,135	7,516
流動負債	48,106	57,732	9,625 ③
支払手形及び買掛金	13,361	14,173	811
短期借入金	4,159	7,321	3,162
コマーシャル・ペーパー	3,000	12,000	9,000
未払費用・賞与引当金	10,476	11,291	815
未払法人税等	3,534	1,837	△ 1,696
工事損失引当金	194	187	△ 6
その他	13,380	10,919	△ 2,460
固定負債	32,691	30,861	△ 1,830
長期借入金	22,618	22,337	△ 280
その他	10,073	8,523	△ 1,549
負債合計	80,797	88,593	7,795
純資産合計	126,820	126,541	△ 279
負債純資産合計	207,618	215,135	7,516

貸借対照表のポイント

① 流動資産 (+3,495百万円)

好調な受注環境による現預金や売上債権の増加

② 固定資産 (+4,020百万円)

体制強化によるオフィススペース確保のためのビル建築資産

③ 流動負債 (+9,625百万円) 固定負債 (△1,830百万円)

ビル建築および運転資金確保による短期資金調達の増加と、株価変動による繰延税金負債の減少



6.連結キャッシュ・フロー計算書

	2019年12月期	2020年12月期	前同差
	1Q実績	1Q実績	
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,232	326	△ 1,906
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,545	△ 8,566	△ 7,021
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,695	10,929	+9,233
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 21	△ 121	
現金及び現金同等物の増減額	2,362	2,568	
現金及び現金同等物の期首残高	24,587	26,158	
現金及び現金同等物の四半期末残高	26,950	28,726	

キャッシュ・フローのポイント

●営業活動によるキャッシュ・フロー

当期は326百万円の収入となりました。

なお、税金の支払いが増加したことにより前期より、1,906百万円の減少となりました。

●投資活動によるキャッシュ・フロー

当期はオフィススペース確保のための建設費用などにより、8,566百万円の支出となりました。

●財務活動によるキャッシュ・フロー

当期は建物建設や運転資金等に関する借入により、10,929百万円の収入でした。

7. 連結 S I 事業の受注高・受注残高

(単位：百万円)

	2020年12月期 1Q実績							
	期首受注残高	前同比	受注高	前同比	売上高	前同比	期末受注残高	前同比
SI事業 合計	54,712	122.6%	60,876	109.9%	56,344	110.6%	59,244	120.8%
システム構築	34,899	111.4%	36,721	107.6%	34,559	105.9%	37,061	112.9%
組込系／制御系ソフトウェア	14,138	110.8%	17,774	108.0%	17,145	108.1%	14,767	110.6%
業務系ソフトウェア	20,761	111.8%	18,946	107.3%	17,414	103.8%	22,293	114.6%
プロダクト・サービス	19,812	149.0%	24,154	113.6%	21,784	118.9%	22,182	136.7%
プロダクト・サービス	17,130	158.7%	20,709	118.5%	18,002	122.0%	19,837	146.7%
アウトソーシング	2,681	107.2%	3,445	91.1%	3,781	105.9%	2,345	86.5%

受注高・受注残高のポイント

● システム構築分野のポイント

- ・ 組込系/制御系ソフトウェア
社会インフラ系の受注が好調に推移し、期末受注残高は前同比110.6%となりました。
- ・ 業務系ソフトウェア
製造業向けを中心に受注が好調に推移し、期末受注残高は前同比114.6%となりました。

● プロダクト・サービス分野のポイント

- ・ プロダクト・サービス
ライセンス製品の受注が好調に推移し、期末受注残高は前同比146.7%となりました。
- ・ アウトソーシング
単体の受注の減少により、期末受注残高は前同比86.5%となりました。

8.新型コロナウイルス感染症の影響について

外部環境

- 緊急事態宣言後、新規感染者増加ペースは鈍化傾向がみられるものの、産業活動への影響が続く
- 特に国内外でのサプライチェーンの混乱や、飲食・観光などサービス業、流通、運輸などの内需分野に影響範囲が拡大
- 景況観の悪化を背景に、設備投資や研究開発投資に不透明感
- 一方で、リモートワークの普及により、関連市場拡大の兆し

当社の現状

- 当第1四半期は、一部のお客様にIT投資抑制の動きが見られたものの、当社業績への影響は限定的
- 受注については、増加ペースを維持しているものの、足元では景況感の悪化に伴いIT投資動向に不透明感
- 一方で、働き方改革などのテーマに関するデジタル化投資や、巣ごもり消費に関連するEC分野などで、持続的な需要が見込まれる
- 当社では緊急事態宣言を踏まえ、常時在宅勤務体制の整備や、国内初となるハイブリット出席型バーチャル株主総会の開催など、新常態への適応が進捗

当期予想

- 経営環境に不透明感がみられるものの、現時点では2月13日に開示した当期業績予想に変更ありません。

(当社予想に見直しが必要となる場合には、速やかに開示いたします)



※ 本資料に掲載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて合理的と判断したものです。実際の業績は市場動向、経済情勢など様々な要因の変化により大きく異なる可能性があります。

また、資料配布の目的が、当社株式の保有継続および追加購入を推奨するものではないことも、併せてご理解いただきますようお願い申し上げます。